

地域推薦枠医学生の卒然・卒後教育をどうするか

—地域医療対策協議会の役割の変遷を受けて—

長岡中央総合病院
呼吸器内科
久代航平



2019年3月1日 第11回全国シンポジウム

まずはじめに

この発表は個人的見解に基づくもので、特定の人物や特定の診療科を批判するものではありません。

プロフィール

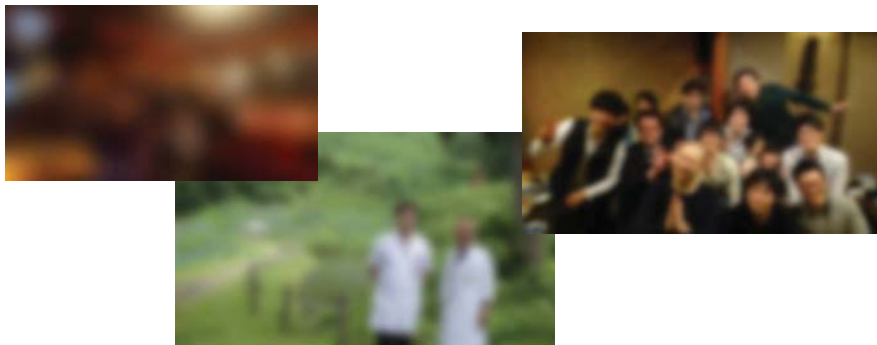
- 生誕地 東京都江戸川区
- 親の転勤に伴い小学5年生時に新潟へ転勤
- H21年3月 県立新潟高校卒業
- 一年の浪人生活を経て
- H22年4月 新潟大学入学(一般地域枠)
- H28年3月 新潟大学卒業
- H28年4月より 長岡赤十字病院で初期研修
- H30年4月より 長岡中央総合病院呼吸器内科で勤務

なんで呼吸器内科になったか

- 祖父が60代の時に肺癌、肝臓癌で亡くなった。
- その時のことが頭にあり、癌をやりたいと思ったのかもしれない。
- 研修医の時は呼吸器内科か消化器内科で悩んだが最終的に呼吸器内科になった。

卒前の生活について

- 地域枠学生としては年に一回、夏季研修として様々な病院に行ったり、佐渡で研修を行ったりした。



現在の生活について

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前				見附※	外来
午後	気管支鏡	検討会	見附	気管支鏡	外来
				※第2、4週のみ	

月2回(第2, 4週)に見附市立病院で当直
 長岡中央総合病院では月1回当直(当番日)
 フリーの時間は病棟番、救外、外来での処置手伝いなど



長岡中央総合病院



- 487床の総合病院
- 呼吸器内科医は自分も入れて6人
- 入院受け持ち患者は10~15人程度
- 肺癌、喘息、肺炎など呼吸器疾患を見ている

見附市立病院



- 94床の見附市唯一の病院
- 呼吸器内科の常勤なし
- 外来は一般内科、健康診断、ワクチン接種
- 呼吸器疾患のコンサルトは他の先生からくる
- 当直は救急車が2, 3台/日、walkinで3, 4人程度

あがの市民病院



- 来年度の勤務先
- 呼吸器内科医は3人
- どんな病院なのかわからない...

現在新潟大学卒業生(同期9人)の進路

名前	診療科	3年目	4年目
A	耳鼻科	530床	530床
B	耳鼻科	605床	605床
C	皮膚科	454床	?床
D	救急科	676床	676床
E(私)	呼吸器内科	487床	250床
F	呼吸器内科	354床	487床
G	小児科	454床	454床
H	産婦人科	487床	263床
I	神経内科	478床	478床

問題点

- 何を期待されてその勤務地に派遣されているかが不透明。
- ただ市町村から要請があったから派遣しているだけ？
- 毎年異動になる人もいれば4年間勤務先が動かない人もいます。
- そもそも地域医療対策協議会は我々はその勤務地で何をしているかわからない？

結語

- 別に小さな病院で勤務すること自体は問題ではない。問題と思っている人もいるかもしれないが少なくとも自分は別に不満は持っていない。
- 明らかに診療科間での不公平があり県からの説明は特になく納得できない人が多い。
- その地域に派遣される目的などがはっきりわかればそれもやりがいになると思うのだが...
- このまま現状が続けば、9年の義務年限後に過疎地で働きたいと思う者は出てくるのだろうか